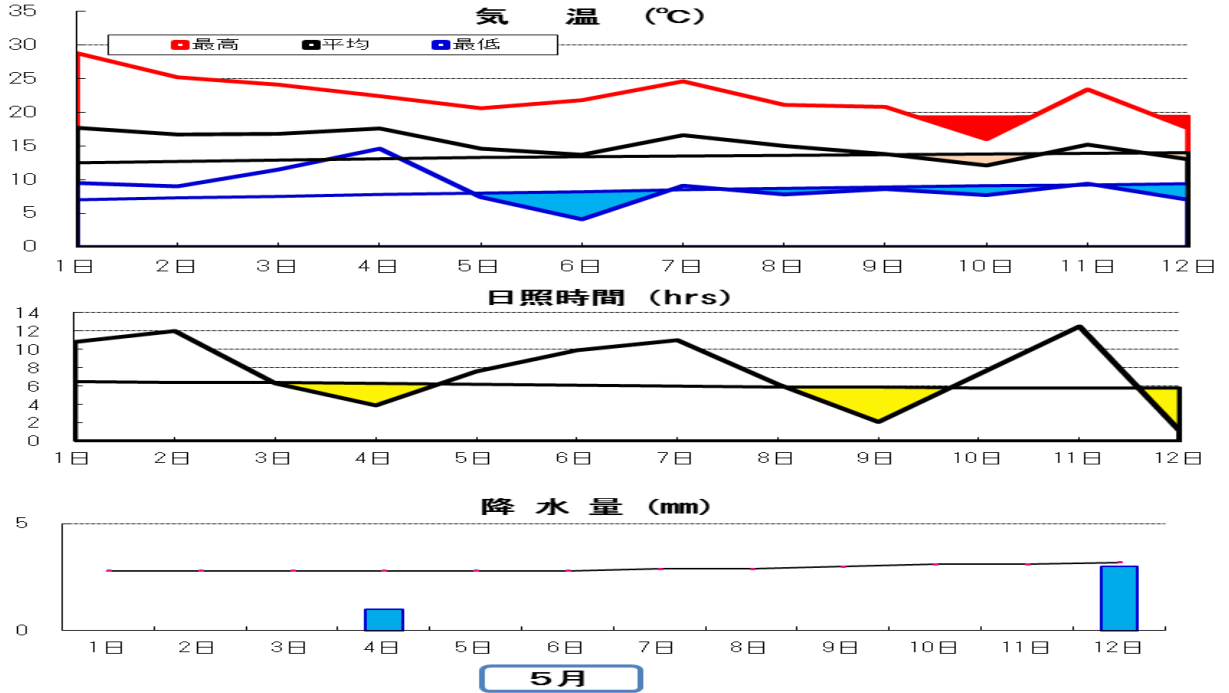


# 稲作情報 2号

平成 27 年 5 月 13 日  
JA 全農みやぎ

**= 連休～5月上旬の天候は温暖で経過し、田植作業進む！！ =**

## 1 5月上旬の気象経過



旬・半旬別気温(°C)

月・旬	平均気温		最高気温		最低気温	
	H27	平年	H27	平年	H27	平年
4月下旬	14.1	11.3	22.8	17.4	5.0	5.7
5月1半旬	16.7	12.9	24.2	18.9	10.4	7.5
5月2半旬	14.2	13.6	20.9	19.3	7.5	8.7

旬・半旬別日照(h)・降水量(mm)

月・旬	日照時間		降水量	
	H27	平年	H27	平年
4月下旬	111.8	65.5	7.0	33.8
5月1半旬	40.6	31.8	1.0	14.0
5月2半旬	36.5	29.7	0.0	14.7

- ・ 4月下旬の気温は、最低気温は低めに経過したが、最高気温が23℃と高く、平年を5℃以上うわ回った。5月上旬も同様の傾向が続き最高・最低気温とも高めに経過した。
- ・ 日照時間は、4月下旬が平年の約2倍の日照時間で5月上旬も多照傾向に推移した。
- ・ 降水量は、4月下旬から少雨傾向が続き、5月1半旬は4日に1mmで、12日は台風の影響で降雨となった。

## 2 育苗概要

- ・ 播種盛期は、4月11日で、平年より1日早く、前年同期となった。
- ・ 播種終期は、4月21日で、平年・前年より1日遅かった。
- ・ 育苗ハウスの締め切りによる高温障害や徒長が一部で見られ、カビ等の病害発生も散見されたが、大きな障害は見られず、概ね良好な生育となった。
- ・ 病害虫防除所による育苗期の巡回調査(4/22～24)でイネばか苗病の発生程度は「少」であるが、

平年より多くの育苗施設で発生が見受けられた。

表－1 播種状況（始期・盛期・終期）とばか苗発生状況

【県全体】					育苗巡回調査におけるばか苗病の発生状況				
本年	4月2日	4月11日	4月21日	97%	64,662	年次	発生地点率 (%)	平均発病箱率 (%)	箱当たり発生程度
前年	(4月2日)	(4月11日)	(4月20日)	-		平成27年	43.6	0.68	少
平年	4月3日	4月12日	4月20日	-		平成26年	43.6	0.63	少
						平年	26.7	0.77	-

※播種始期、播種盛期、播種終期は作付面積比でそれぞれ5%、50%、95%が播種された時期。  
 ※調査地点数は県内39地点、全地点の合計調査箱数は53,728枚。調査は4月22～24日に実施した。  
 ※（ ）は前年値。平年値は過去5か年(平成23年を除く)の平均値。  
 ※平年は過去10年の平均値

### 3 田植の進行状況

- ・5月6日現在、県全体の田植え面積は16,401haで進行率は25.4%となった。
- ・地域別に見ると例年通り石巻地域が最も早く、49.1%の進行率となっている。
- ・本年の田植え開始時期は、5月3日であり平年より1日早くなっている。

表－2 地域別田植え進行状況

区分	田植始期 (5%)	田植盛期 (50%)	田植終期 (95%)
本年	5月3日	-	-
前年	5月4日	5月11日	5月21日
平年	5月4日	5月10日	5月20日
平年差	1日早い	-	-

※平年値は平成17～26年の10ヶ年のうち最も早い年と最も遅い年を除いた8ヶ年の平均値。

### 4 今後の管理

#### (1) 水管理や補植

- ・好天が続いており、活着が早く、茎数が多くなることが予想される。茎数過多とならないよう適正な籾数確保のため、水管理や中干し等でコントロールすることも必要である。
- ・連続した欠株がなければ、労力節減等の面から補植しなくても収量等に影響がない。
- ・中山間部や冷水掛の水田では、浅水にして水温上昇を図り、初期の分けつを確保する。

#### (2) 補植用残苗の処分

- ・気象庁の1ヵ月予報によると6月初めまでは晴れの日が多く気温は高めと予想されている。
- ・例年補植用残苗が多く見受けられるので、残苗放置は本田いもち病の発生源となるので早急に処分することが重要である。

#### (3) 雑草対策のポイント

- ・雑草対策のポイントは、水田の水持ち一つにかかっている。(均平、減水深)
- ・雑草葉令の進展にあった除草剤散布が重要で、圃場内の雑草葉令をきちんと調査して散布する。
- ・特に、ホタルイは斑点米カメムシの発生源となり、発生状況により体系処理を考慮する。
- ・気温の上昇が予想され、雑草生育も早まるので、散布適期を逃さず除草剤の散布作業を進める。